20170423

幸せですか(マタイ5:1-3）

1部礼拝を通して、ヨハネの福音書から一通りメッセージをいただきました。これから暫くはもう既に語っていたし、ご存知ではあると思いますが、とても大きな重要なテーマについて、1部礼拝を通してご一緒に考えていきたいなと願います。

今日のタイトルにあるように、「皆さん、幸せですか？」。私が集会などに呼ばれたときに必ず一番最初に会衆に向かって投げかける質問です。その時に「はい」と自信をもって返事をする方が約20%ぐらい、他は70%ぐらいは迷いつつ、10%ぐらいは全く自信がない。大体そのような状態でした。その中で自信をもって「はい」と言えた人の中でも、本当に聖書が教えている通りに幸せだから幸せと言っているかといいますと、そうでもないわけです。逆に同じなのです。自信のない迷っている人も、結局、様々な不幸だと思われるいろいろな要素、いろいろな条件が、教会に通っていて礼拝の場に来ているのにもかかわらず、いまだにあるので、幸せとは言えないという思いで自信をもって「はい」と言えなかったのではないかなと思います。もし私たちクリスチャンが、正しい意味で「幸せです」と「はい」と言えるのであれば、その人は残りの生涯、本当に何も心配ないと思います。そして、クリスチャンとして正常です。皆がそうでなければいけません。でも、残念ながら様々な理由で「はい」言えないクリスチャンの方が多いのではないかなと思います。自分のお話で申し訳ありませんけれども、私は小さい頃に母親が早くなくなっていたので、友達と比べて私は、そういう意味でちょっと不幸だなと幼いながら、そのような感情を持っていたと思います。それで家庭内環境があまり人に自慢げに言えるような状態でもありませんでした。ですから、自分は幸せな人間では無いだろうと思って育ってきたと思います。ある人は、皆健康なのに自分は病気で、体がとても弱いし、あるいは障害を抱えている場合もあります。だから、健康な人がうらやましいと思いながら、自分は幸せとは言えないという人もいます。国際的に考えても、今戦争に巻き込まれている何の罪もない民間人、特に子どもたちが被害を受けているというニュースがよく報道されています。彼らはとても不幸なんだろうと。もちろん、それが幸せだとは言えません。だから、そうではない私たちの子どもや私たちは幸せなのでしょうか。皆そのように思っているわけです。とても愛情があふていて、子どもを思い、親を思いと、暖かいアットホームな家庭は幸せだろう。しかし、自分と自分自身の家庭を見るとそうではないので、それが羨ましいなぁと思う。気持ちはわかります。だからといって、あの人たちは幸せだろう。だから逆に私は幸せではない、不幸なのだと皆が当たり前に思っています。本当にそうなのでしょうか。

もし皆さんが「幸せですか」と言う質問に対して、「はい」、「迷っている」、「いいえ」という返事の根拠がそうい物だったとしたら、クリスチャンとして望ましくないと思います。ついつい私たちは、条件がどうなのか、どういう環境なのか、どのような状況に今置かれているのかによって、幸せ、不幸などを天秤にかけて評価したりしていました。今もそのようにしています。皆さん、クリスチャンとしてどのように思っていらっしゃるのでしょうか。これは非常に大切です。だから、たっぷりな愛情で人に愛されていれば幸せ、そうでない場合は、不幸だ。学校に行って友だちと仲良く過ごすというのは良いことなのです。でも、いじめられた場合には、そういう事と比べたときに自分はいじめられているので不幸だと思うのです。そうすると、いじめられないで仲良くしているものは幸せだということになるのではないでしょうか。そういうことによって幸せと不幸を評価することに当たり前になっていて、そういうことに慣れていて、それ以外に何もないという人生、世界をずっと歩いてきたわけです。その中で神様の恵みによってクリスチャンになりました。「ハレルヤ。神様、感謝します」と言いながらも、幸せなのか不幸なのかに対しては同じレベルで、同じ次元でずっと考えているので、クリスチャンなのにいまだに不幸の中をずっと歩いていて、だから幸せになりたいという願い、願望をもって必死なのです。礼拝に来るのもお祈りをささげることも、ときには献金をささげることも、皆幸せになるためにとなっているのです。そして、子どもの教育も子どもをどのように育てるか、家の中で夫や妻にどうするかなども皆幸せになるために、幸せが壊れないために、不幸にならないためにということになっているのではないでしょうか。もちろん、中には、世の中でも条件、状況、環境がよろしくなくても、自分の心の中で自分の意地で「私はそういうことと関係なく幸せなんだ」と思っていれば幸せだと、自分なりに思い込んでいます。自己満足のように幸せを感じれば幸せだと思っています。このような幸せの考え方、アプローチというものもあるわけです。クリスチャンの中でも一般的に条件、状況に左右される幸福感を持っている場合もあるし、あるいはその中でも、まあ幸せだよ、幸せだと思えばいいよと思う場合もあります。

特に申し訳ありませんけれども、先進国の中の先進国、レベルの高い日本人の場合には、小さい時からそのような教育を受けて育ってきたので、大変でも大変だと思ってはいけない、悪くても悪いと思ってはいけない、問題を問題だと思ってはいけない、それはレベルの低いものがやることなのだ。そうやって我慢強い人間として育ってきた日本人としては、どんなに不幸なことがあっても幸せと思えばいい、幸せだと思わないければいけないということを自動的にします。それで幸せなのでしょうか。何も問題がなければ幸せでしょうか。誰かにとてもとても愛されていれば幸せなのでしょうか。そうでないから自分は不幸だと、自分の人生は不幸だらけなものだと思っているのでしょうか。だから、精神的にもごちゃごちゃなのです。安定することができません。そこに目に見えない暗闇の力、悪魔、サタン、悪霊がつけ込んで、その人の精神、心、情緒すべてを混乱させ操ってコントロールするわけです。残念ながらクリスチャンなのに幸せになるために幸せを求めて、それが手に入らないといつまでたっても不幸な状態、不幸な気持ちを持っていて、また朝起きて今日も幸せになるために、より一生懸命祈ろうとし、疲れて重荷を負って人生は歩くようにさせるのです。それがで良い新小岩であるかのように。

皆さん、本当に幸せですか。何が幸せでしょうか。私たちは幸せですかと言われたときに、それ大考えるためのエリアと言うものがもう決まっているのです。条件、状況、環境、あるいは人によって、それらがどうなのかを吟味するわけです。それがよろしい、よろしくないかによって幸せなのか不幸なのかを考えるようにもう固まっているのです。でも、クリスチャンの私たちは、そういう状態では一生かかっても迷宮入りになり、迷路を歩くようになるしかありません。幸せを考える時に、条件、状況、環境というエリアから抜け出して、まず幸せという概念、何が幸せなのかという幸せの定義から考えなければいけません。そこから考えないで、こうであれば幸せ、ああであれば幸せ、そのような次元にずっと留まっているので答えがなかなか出ません。クリスチャンの皆さんは、そこから抜け出して本当の幸せを正しく考えることができるところに来ている方です。だから、幸せを考えるときに、他のことを先に考えるのではなくて、幸せとは何なのか、何が幸せなのかという幸せの概念を正しく理解しましょう。もし今まで私たちが幸せ、不幸うんぬんしていた事が、その理解から外れていた場合には、まずそれを修正しなければいけません。気持ちはどうであれです。例えば、今の状況がどうであれ、その幸せの概念、幸せの定義に合っているかどうかを考えて、合っていれば幸せなのです。そのようなアプローチをしていただきたいと思います。

イエス様が弟子達を呼んで、一番最初に正式なメッセージをされ内容の第一声が幸せに対しての話でした。それほど一番大事なテーマなのです。だから、弟子達に向かって、あなた方は幸せですかと問いかけたことと同じことであるし、あなた方は幸せものだよというメッセージなのです。心の貧しい者は幸いです。何が幸せなのかというと、心の貧しいことが幸せなのです。心が貧しいことが幸せなのではなくて、そのような人は幸いなのですが、理由が何かというと、天の御国がその人たちのものだからです。つまり、幸せの概念、幸せの定義は、天の御国がその人のものになっていることを幸せと言います。つまり、正確に申し上げると、今まで幸せ、不幸うんぬんとしていたのは、ある意味で一理あるかもしれませんが、天の御国と全く関係なく述べられていて、言われていて、飛び交っていた話なのです。あてにしないでください。もっとダイレクトに申し上げると、神様を知らない人たちや、神様を無視している、神様を信じていない、神様の存在を全く認めていない人々が、頭を使って工夫して経験して研究して作り上げた概念なのです。なぜそれに私たちが振り回されなければいけないのでしょうか。何が何なのかを語る以前に、スタートそのものがあてにならないものではないでしょうか。イエス様は一番最初に、このメッセージを語ったのと同じ理由で、私たちにも何が幸せなのかに対してその概念を修正するという作業がクリスチャンとして第一だと思います。それが修正されていないまま、一生懸命祈っていてもそれは的外れになってしまいます。そういう意味では祈るなとおっしゃっているのです。祈らなくても結構です。何が幸せなのかを深く深く考えてください。真面目に考えてみてください。今まで皆さんが幸せだ、不幸だと思っていた、そのすべてが実はあてにならないものだと納得できるまで、聖書とイエス様が語っていらっしゃる幸せについて考えて考え抜いていただきたいと思います。それを信仰生活、それをクリスチャンのスタンスといいます。神様が皆さんに何か重荷になることを要求して、やったのかやっていないのかというのを見て審査するようなイメージを持っているかも知れませんけれども、神様はそのような方ではありません。まず、何が幸せなのかを考えなさい。これが第一声です。だから、第一に考えてみてください。他の余計なことを考える前に。

何が幸せでしょうか。天の御国とは何でしょうか。神様が治めている国。創造の神様が治め、その神様と通じ合う、神様がともにおられる、神様の御心がなされる国。これが神の国です。つまり、創造の神様を抜きにして神の国は語れません。ご存知のように、人間というものは、犬や豚や虎のような動物とは最初から全く異なる被造物でした。神様が一番最初にすべての万物を創造されて、最後に人間を作られました。その時に、鼻に息を吹き込んで、人間だけに聖霊がとどまる、魂のある霊的な存在、つまり、人間だけが神とともにおり神様と交わり神の祝福をいただいて、神の国を歩くことができる唯一の存在でした。そうでなければ、神様の代わりに、万物を収めることができません。どんなにかわいい犬や猫のペット、他の動物等はどんなに力があって、スピードがあっても、それは神の国とは関係ありません。ただの被造物なのです。だから、そこには幸せや、不幸というものはありません。神の国という壮大な目的のために、一時的に使われるものなのです。その真ん中に主人公として立っているものが人間です。だから、幸せというものは、人間だけに許されている、人間固有の特権なのです。世の中では、本当の幸せが何かわかっていないので、犬も幸せ、飼い主がよければ幸せ、何でも幸せ、不幸といいます。木を見ても「お前は幸せだろうなぁ」といいます。だから、概念そのものがずれているので、続いているのでそうなるしかないでしょう。ですから、幸せをうんぬんするためには、まず概念をしっかり正さなければいけません。そのように疲れた人間なので、人間の幸せというものは、条件、状況、そして、人間や環境等に左右されるものではなくて、神によって左右されるものなのです。神様がともにおられて、神に治められること、それを神の国といいますけれども、それを幸せと言うのです。皆さん、生まれながらそういうことを知らずに罪人して生まれて、神のない教育をずっと受けてここまで来たので鈍いでしょうけれども、人間そのものが神のかたちなので、人間だけにある幸せというものは神様とくっついていて神様が関わっているものなのです。神様を除いて幸せ、不幸などは語れません。そこをまずしっかりしない限りは、世の中では無理です。自分の罪と罪過との中に死んでいたものなので。でも、クリスチャンの皆さんには、それが聞こえてくるいのちが与えられているわけです。神様と関わっていることを幸せといいます。

もう一度言います。条件、状況、環境、人がどうしてくれるか、いじめるかいじめられるかなどと関係なく、極端に申し上げると、生者の被害に遭っている人の中でも神様と関わっていて神を「アバ、父よ」と呼ぶことができる存在には、爆弾 によって死んだとしてもその人は幸せなのです。ぜひ、ここを修正してください。逆に言うと、平和な国で暮らしていて、自分で幸せだと思い込んでいて、色々な種類の人間がいるでしょうけれども、その中でも人間的に恵まれて、愛情をたっぷり受けた環境の中にいる人間であっても、神様と関わりがない場合には、その人は不幸な人間なのです。なぜでしょうか。幸せとはそういうものだからです。気持ちが良ければ幸せという概念ではありません。幸せという概念、定義をまず正しく理解して修正するところからやってみてください。10年以上同じお話をしていても、皆さんがシーンとしていないような気がします。それほどサタンの仕業というものはものすごく強力だと思います。しかし、聖霊の働きは、それを上回ることを信じています。語り続けます。幸せは、当たり前に考えているようなそういうものではありません。いじめられたからといって不幸とか、そういうものではありません。それを上回ることを信じています。語り続けます。幸せは、当たり前に考えているようなそういうものではありません。いじめられたからといって不幸だ、そういうものではありません。親に虐待され、兄弟と比べられたから、だから不幸だった。その不幸による傷を抱えて皆そのように言うのです。その傷は全部詐欺です。嘘の塊なのです。神様抜きにしてスタートしていた幸福感、それを前面から真っ向から否定するようにしてください。違います。母親が、早く亡くなったから不幸ではありませんでした。その時私は神から離れていました。それが不幸なのです。死の陰の谷を歩いていても。母親が早く死んで、腹違いの兄弟からいじめられて殺されかけたヨセフでも不幸だとは思いませんでした。そのようなことは、不幸ではありません。彼を殺そうとしていじめていた兄弟たちが神様と関わっていなかったので不幸であって、やられていた方のヨセフは神がともにおられるものだったので幸いなもの、幸せなものなのです。なぜなら、天の御国を所有していたからです。人間の幸せは、神様がともにおられることなのです。神様と出会うことです。

その時に、神様はその幸せな人間に祝福を宣言されます。幸せと祝福は別です。幸せな存在だから、生めよう、増えよ、地を満たせ。つまり、神の代わりに生きていきなさいという祝福の宣言なのです。結論で申し上げると、今で言いますとエルサレムから地の果てにまで、イエスの代わりに生きていきなさいという祝福が宣言されます。幸せな者に限って。そこにすべてがありました。その祝福は、完璧です。しかし、ご存知のように、この幸せがすべて壊れていくようになります。回復不可能な状態になるまで壊れていくようになりました。すべての人は罪を犯しので、神からの栄誉を受けることができず。ここまで全部暗記しなければいけません。罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず。これを不幸といいます。不幸の理由は、罪によって神から離れたことが不幸なのです。旦那の事業がうまくいって、お父さん、お母さんからたっぷり愛情をいただいていたとしても、神を知らないものは不幸なのです。神様から離れたということがどういうことなのかご存知でしょうか。自分の罪過と罪の中に死んでいたものであって、自分は一生懸命生きるつもりなのに、空中の権威を持つ悪魔、サタンが作り上げた世の流れに流されて、その奴隷として生きていくしかないし、死の恐怖につながって一生、死の恐怖の奴隷として生きるしかありません。なにがどうしても最後はさばかれて永遠の地獄に行くしかないものなのです。滅びの運命、不幸な運命にとらわれて生きるようになります。それを一言で、皆聞きたくないでしょうけれども、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものである。神の国を所有していない場合は、このように言われる存在になります。これが不幸なのです。物事がうまくいかないことが不幸ではなくて、他の人より才能がないから不幸ではなくて、世界選手権で誰かが金メダルで自分は銅メダルだから不幸ではなくて、先進国だから幸せで途上国だから不幸なのではありません。世の中で幸福度の指数を調査したりアンケートを取ったりするでしょう。全部デタラメです。最初から神様を除いて抜きにして調べるものですから。全部が先ほど申し上げました条件、状況、環境、自己満足的なものによる返事なのです。クリスチャンはそういうものに一緒に振り回されます。これはもう回復不可能なのです。絶対に人間が自分で幸せを取り戻すことはできません。それを知らないでいるから、人間は努力すれば、お金があれば、成功すれば、愛情があれば幸せになるだろうと思って、いまだにずっとがんばって必死なのです。そういうものによって戦争、トラブルが起きているわけです。それを手に入れるために。自分が幸せになるために他の何かを潰さないといけないから。でも、歴史は証明しているし、聖書が明らかにしているのは、人間がどんなにあがいても自分では幸せになれないのです。だから、神様が人を愛して、本当の幸せを取り戻ために、神様は約束されました。

幸せは何でしょうか。神様と関わることです。神様が一緒にいることなのです。でも、人は罪を犯して、それが不可能なので、神様自ら神様と一緒になるための道を約束されました。それがキリストなのです。そのキリストが十字架にかけられてよみがえられたイエス様なのです。イエス様がキリストです。だから、イエス様がおっしゃっているのです。まことにまことにあなたがたに告げます。わたしの言葉を聞いてわたしを遣わしたものを信じるものは、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことなく、死からいのちに移っているのです。つまり、不幸から本物の幸せに移るようになるのです。イエス様をただ信じるだけで。イエス様が不幸のすべての理由、罪を背負って代わりに罰せられよみがえられることによって、悪魔の頭を踏み砕いて勝利なさいました。神様と出会う道となったのです。わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。イエス様がキリストとして神様と一緒になる道、つまり、幸せ戻す唯一の道となられたのです。そのイエス様が十字架の上ですべてを完了して招いていらっしゃいます。すべて疲れて重荷を負っているものは、つまり、どうしようもない不幸の中を迷いつつさまよっているものは、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。だれでも主の御名を皆呼ぶものは救われるよ。イエスの御名を呼ぶもの、受け入れるものは、聖霊がその人の内側に宿る神の神殿と変わります。これが神の国を所有するということです。イエス・キリストを救い主として受け入れるそのときに、その人の内側に神が来られます。聖霊を通して。人間が神に会いに探していくのではなくて、道であるイエス・キリストを通して、神様ご自身が内側に入って来られます。そのときに、天の御国を所有したというわけです。心の貧しい者というのは、今申し上げましたイエス・キリストしか神様に会う道は無いのだねという気持ちになったものを心の貧しい者といいます。つまり、イエス・キリストを信じる思いが、心の貧しい思いなのです。その人はだれでもです。条件、状況、環境関係ありません。受け入れるそのときに、天の御国は所有して、条件、状況、環境関係ありません。そして、ダビデとヨセフと違って、イエス・キリストを受け入れたものは、一度、天の御国を所有すると、二度とこれは消えることがありません。だから永遠のいのち、幸せも永遠の幸せなのです。これが幸せなのです。そういう意味で、心の貧しいものは幸いです。天の御国がその人のものだからです。ペテロが、イエス様の質問に対して、「あなたは生ける神の御子キリストです」と告白したときに、イエス様が悪いような指紋あなたは幸です。その時にペテロを見ると、私たちの今までの幸せの概念から見るとこれっぽっちも幸せではありません。貧乏で無学で下っ端下っ端をくぐるレベルの人で、性格的にはものすごく短期でどこを見てもいいところは何もありません。それなのにイエス様は、あなたは幸いですとおっしゃいました。なぜなら、イエスはキリストと告白したので、その人の内側には天の御国が臨まれるようになったのです。死の陰の谷を歩いていても幸せです。死の陰の谷を歩いているのか、あるいはベッドの上で寝ているのか、それらは幸せの基準ではないから、刑務所の中にいても私を強くしてくださる方にあって何事もできます。天にある霊的なすべての祝福をいただいて幸せなものなのです。刑務所の外なのか中なのか、障害者なのか健常者なのかなどは、幸せを分ける基準にはなりません。まず、そこを修正しなければいけません。幸せの概念をです。条件、状況、環境ではありません。神の国、天の御国を所有しているかどうか、つまり、イエスを持っているかどうかです。歳をとっているから不幸。今生まれたばかりだから、将来未来があるから幸せ。もう何年後には消えてなくなる歳だから不幸。そのような基準はありません。幸せなものは。なぜなら、外側のものが衰えることによって幸せは何の影響も受けないわけですから。何が幸せでしょうか。イエス・キリストが幸せなのです。

だから、改めて聞きます。幸せでしょうか。真面目に問いかけなければいけません。誰が幸せな人間で、何が幸せなのでしょうか。もう一度聞きます。皆さん、幸せですか。なぜ幸せなのでしょうか。最後に改めて申し上げます。わかっているようでなかなか変わらないのです。幸せが何なのかということを考えて、気持ちと関係なくそこから考えてください。そうすると、自分がたとえ今刑務所の中にいても、ことがうまくいかなくても、自分が幸せだ、幸せの主人公であるということが確認できると思います。だから、幸せになろうとせずに、幸せなものだと確認する作業が先なのです。自分は幸せなものなので。その幸福感に満たされるまでは、時間差というものは人によって違うでしょうけれども、幸せはまず確認するものなのです。イエスを持っているか持っていないか。外は何も見ずに。そうならば、自分は幸せなものです。つまり、これからは、クリスチャンのスタートは、幸せを手に入れるために、不幸をなくすためにではなくて、幸せなものとしてスタートなのです。クリスチャンのスタートは、どんな人間、どんな状態であっても、幸せなものとしてスタートなのです。このことのために幸せを正しく理解して確認しなければいけません。幸せなものだから、今までのように幸せになるために、不幸だ、ああだという落胆等は全部振り払ってください。幸せになるためなどと言う人生はもう終わったのです。この幸せを味わい喜んでエンジョイしながらこの幸せを伝達するためにというのが人生の方向であり理由なのです。今日の一日も、仕事をする理由も、勉強する理由も、友達と遊ぶ理由も、幸せなものとして遊んでください。幸せなものとして職場に行ってください。サタンの騙しごとや何かによって騙されずに、騙されたそのところで、またすぐに「ああ、騙された。私は幸せなものだ」。これをスタートにしなければいけません。そうでなければ一生教会に通っても、悪魔にやられっぱなしになるのです。不幸だから、不幸ではありません。幸せの概念が修正されていないのです。修正してください。お金があるから、温かい家庭だから幸せなのではありません。そうでは無いから不幸なのでもありません。神様がともにおられること、イエスを信じることが幸せなのです。それに釘を刺してください。そうならば、死の陰の谷を歩くような状態でも、自分は幸せなのです。幸せなものとしてスタートする、それを祈りといいます。ここからスタートしなければ祈っても祈りではありません。逆に祈れば祈るほど、損してしまうのではないかなと思います。子どもに問題があるのでしょうか。経済に問題があるのでしょうか。まず、そういうことと関係なく、幸せなものだと確認しましょう。その幸せなものとして、その目で見て欲しいなと思います。そのときに神の国が臨まれます。暗やみの勢力が砕かれるわけです。誰もクリスチャンに勝てるものはいません。そういうものだから、圧倒的な勝利者として生きることができるわけです。奪われる幸せがないからです。これは絶対奪われません。条件、状況、環境は変わるかもしれません。悪魔はそういう部分は触るかもしれません。でも、私にある幸せは触ることができません。だから、圧倒的な勝利者となります。

祈り）

恵み深い天の父なる神様。これから神様から与えられているキリスト、イエスにある素晴らしい祝福を存分に味わうために、それを邪魔している間違っている概念を修正することができるように、一人一人御言葉を持って聖霊様が働いてください。それで本当に何が何でも幸せなものとして確信を持って、すべてをスタートさせることができる、悪魔が一番恐れる手を出すことができない勝利者としての道を一人一人導いてください。イエス・キリストが幸せであり、イエス・キリストによってここにいらっしゃる一人一人が条件、状況、環境と関係なく、幸いな幸せな方であることを覚えて主の御名をほめたたえますあ。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。